

のっけから面食らってしまった。
「71歳でクラチャンになったゴルフファーがいる」

このようならわさを聞きつけ、そのゴルフファーが所属するゴルフクラブへ取材に赴いた。年齢から想像するに、「50年にもおおよぶ長いゴルフ歴の中で身に付けた様々なテクニクを駆使して、いわゆる枯れたゴルフで久しぶりにクラチャンに輝いた」……しかし、その単純な想像はあっさり覆されたのだった。

取材陣を出迎えてくれたのは、71歳とは思えないほどはつらつとしたスポーツマン、師岡清和さんだった。

71歳にして初のクラチャンに輝く

「チャンピオンになれるとは夢にも思わなかった。チャレンジし続けることの大事さを再確認しました」

2009年度クラブ選手権決勝は7月12日に行われた。36ホールのマッチプレーだが、対戦相手はクラブでも屈指の腕前を持つ。

「相手は自分の息子と同年代。心技体が充実した年齢です。これまで何度かチャレンジしたけどかなわなかった相手であり、前日に練習ラウンドを一緒に回ったけど、こてんぱんにやつつけられました」
当日、スタートの10番ホールで相手が幸先よくバーディーを奪う

が、2番ホールでイーブンに戻すと、気持が楽になった。

「バーを取ってあげれば相手のミスが出る」

しかし、この日の師岡さんは「自身の言葉を借りると『神がかっていた』という。ドライバーで100ヤードも置いていかれることがあっても、アプローチ、パットにさえ見せ、前半の18ホールを終えて、6アップとリードを奪った。常に次の1打をイメージし、集中力は最後まで切れなかった。

終わってみれば6&5で圧勝。「勝った瞬間は涙が出てきた」

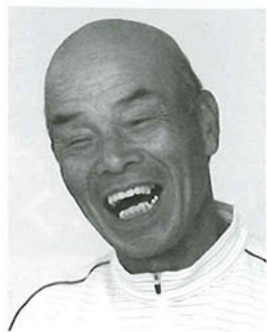
10年チャレンジを続けて、初めてクラチャンの座を射止めたのだ。

成長を続ける秘訣は たゆまない努力の賜物

師岡さんがゴルフを始めたのは意外にも遅く50歳になってから。周囲の友人に誘われたのがきっかけだったが、シングルの腕前を持つお兄さんからクラブ一式を譲ってもらい、同時に手ほどきを受けて本格的にゴルフに取り組んだ。

競技ゴルフを始めたのが、62歳で仕事をリタイアし、水府ゴルフクラブの会員になってから。クラブの競技だけでなく一般の大会にも挑戦したいと、出場資格の70台のスコアが当初の目標となった。生活はゴルフ中心に回っていくこととなる。

それから毎日5キロのウォーキングを開始。その際には腕と足に500グラムのおもりを付けて負荷をかける。行きつけの練習場は、午前9時から午後3時までサービスタイムが設定されていて、1500円で打ち放題。「1球1円が目標（1500発）と通い、最低でも8



師岡清和さん

(もろおか・きよかず)茨城県・水府ゴルフクラブ所属。1937年10月24日、茨城県日立市出身。159cm、58kg。ゴルフ歴22年。コースハンディキャップ4。持ち球ドライバー。ヘッドスピード43m/s。ドライバー平均飛距離250ヤード。性格は「負けず嫌い」。嫌いな言葉は「年だから」。

たゆまない努力と
日々の節制で
いまだに成長を続ける
驚異の71歳

ゴルフ 11 クラチャンのクラブ

ゴルファーなら一度は手にしたいクラブ選手権のタイトル。
憧れのクラチャンのゴルフライフ、使用クラブをのぞいてみた。

水府ゴルフクラブ



茨城県常陸太田市東連地町1320。常磐自動車道・那珂ICから約22km、JR水郡線・常陸大宮駅から車で約15分。

1982年11月2日開場。18ホール、パー72。富沢誠造氏設計。

ティグラウンドに立てばほとんどのホールでグリーンが見渡せる。技術が要求されるアウトコース。変化に富み、パワーと技術が必要な戦略的なインコース。狭いが300ヤードそこそこのミドルや200ヤードを越すショートなどメリハリのきいた攻略が必要。グリーンは比較的小さく、緩やかなアンジュレーションのため微妙なラインが多

く、正確な判断が要求される。

戸田晴康副支配人の話。「60歳を過ぎて本格的にゴルフを始めて、10年越しの挑戦で初めてクラチャンになられたのが71歳。何もかもが驚きの連続です。一般的に40歳くらいまでにゴルフを始めて、シニアになられたころには悠々とゴルフをされる方が多い中で、師岡さんは別格です。現在、団塊の世代でリタイアされてゴルフを楽しまれる方が多くいらっしゃいますが、そんな皆さんに夢を与えてくれました。『お前がやれるなら、今度は』と周囲の方を元付けています」

本人による
スイング
分析

年齢を感じさせない 柔軟性を維持した スイング

年齢とともに筋力だけでなく、柔軟性も次第に失われていくもの。「どうせやるなら、みんなと同じスイングがしたい」と、師岡さんは「(先端におもりを付けた)野球のバットのグリップを平らに削って、それを毎日欠かさずスイングしている。これを続けないと体が硬くなり、どうしてもバックスイングが小さくなってしまおう」と、継続したトレーニングを心がけている。目が覚めて、両手の指を折ることからスタートし、布団の上で柔軟体操を行うことも欠かさない。「時間があれば朝風呂に入って、湯船の中でストレッチをすることもある」。その成果が71歳とは思えない、柔軟性のある大きなスイングだ。



師岡さんの クラブセッティング

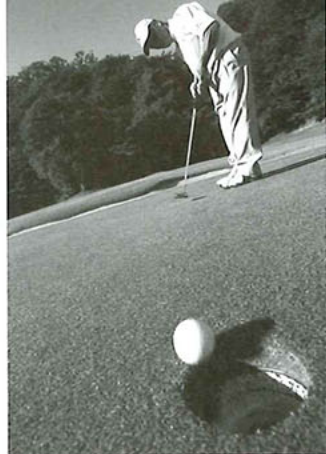
「お前はすぐに(クラブに)鉛をはる」とゴルフ仲間が茶化すほど、アイアンを除いたすべてのクラブをご自身でカスタマイズ。特にウエッジは「だめにしたのが何本あるか」と、エッジとバウンスを削り、自分に合った1本を模索する。70歳までは3番アイアンを入れていたが、距離が出なくなったので7Wを入れることにした。この7Wを使うようになってから、3Wと5Wをうまく打てるようになり、ロングホールでバーディーを取れるようになった。そういう意味からも「セッティングの基本は7W」と語る。「パー5が苦にならなくなったことで、コースマネジメントの幅が広がった。それは70歳になってもできること。年を取ったからといって“弱虫”になってはだめ!」

クラブ	メーカー	モデル	ロフト角	長さ	シャフト	硬度	バウンス	総重量
1W	ブリヂストン	X-ドライブ445	9.5度	45.75インチ	ディアマナカ11	S	D8	365g
3W	ロイヤルコングレス	SFDタイプH	14度		ディアマナD63	S		
5W	ウインバード	バーテックス	18度		ディアマナD63	S		
7W	ウインバード	バーテックス	21度		ディアマナS63	S		
5I	ダンロップ	ゼクシオフォージ			NS950GH	S		
AW	ブリヂストン	ツアーステージ101LB	50度		NS950GH	S		
SW	ダンロップ	スリクソンWG-706	56度		NS950GH	S		
パター	テーラーメイド	ロスマンサウチビッチスリッパ						
ボール	タイトリスト	プロV1						

00発は打ち込んだ。さらに、自宅の近くにあるゴルフ場の練習グリーンを借りて、パットの練習を2時間。これらが日課となった。私生活の中でもなるべく利き手ではない左手を使うように心がけ、体の柔軟性をキープするためには、起きがけのストレッチも日課としている。

「ラウンドが終わってからパット練習を30分欠かさず行っています。みんなはすぐに帰ってしまうけど、もっと練習がしたい(笑)そんな時はいつもの練習場に駆けつけます。体の丈夫さは親譲り。本当に感謝しています」

さらに転機となったのが、水府



ゴルフクラブの経営にアコーディア・ゴルフが携わるようになってから、田幡勝一プロのレッスンを2004年から受けることになり、急速に進歩を見せ始める。また、一般の大会に出るようになり、茨城のトップアマの人たちとの交流を持つようになる。試合の組み立て方やコンディションの調整法を学んでいった。

ただただ驚かされるのが、師岡さんのバイタリティだ。お話をうかがっていた時も、コースに立たれた時も、体の芯からエネルギーが噴き出してくる印象を受けた。そして何と言ってもその素敵な笑顔が取材陣をとりこにした。

最後に「これからの目標は何ですか」とうかがうと、

「何とか(茨城県の)予選を通過して、決勝大会でも予選を勝ち抜き、最終日までプレーしたい」と、瞬時に答えが返ってきた。

もちろん師岡さんが目指しているのは、シニアの大会ではなく一般アマチュアの大会である。

